

(前略)

昭和 45 年に、鹿児島市の北東に位置する始良市で、内科の病院を開業して半世紀が過ぎました。この間に、老健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、保育園を開設しましたが、そのおかげで、乳児から高齢者まで、地域のたくさんの人々と接する機会がありました。

自分自身が超高齢者となった今、人間の幸福とは、それぞれの年齢で何らかの役割を与えられ、価値を認めてもらうことではないかと思います。幼児期は、虐待でもない限り、親や保育園の先生の愛情を受けて育てられます。ところが、老年期になり社会の第一線を退くと、家族からも社会からも甘やかされて役割がなくなり、その結果、健康が損なわれることもあります。70 歳を古希といますが、「こき使って」もらう方が、本人のためになると私の経験から申しましょう。老年期に社会とのつながりを保つためには、住み慣れた地域の人々との交流は大切です。昭和の古道具を集めた資料館（重富民俗資料館）を作り、地域の高齢者に、昔を思い出すリハビリとしての回想法や、歌声喫茶、作品の展示スペースとして利用していただいています。私の趣味を活かしたのは幸いでした。一方、健康を崩して入院ですと、徐々に家族との交流が疎遠になる方もおられます。終（つい）の住処になるかもしれない病院や介護施設では、本当の家族ではありませんが、医療者や介護者が第二の家族となります。患者やご利用者がそれまでどのような人生を送ってきたかに関わりなく、平等に温かい看護や介護を提供してくれる職員に恵まれたことはありがたいことです。

今回の受賞は、地域の皆さま、そして、法人の職員に頂戴する賞だと思います。代表してお礼を申し上げます。ありがとうございました。